

「現場に学ぶ医療福祉倫理」第11回レポート（12月4日）
がんサロンの開設・運営 島根県から広がった波 ～10位1体から得るものとは～

浅賀はるみ 3B07012

知的障がい者グループホーム勤務

ご自分の経験をこのように深め広げていらっしゃることに深く強く感動いたしました。

私は、一人娘を二十数年前に脳幹部脳腫瘍で亡くしました。5歳でした。先生のお話を聞きながら、その頃の事を思い出していました。

医師の説明を受けても理解出来ず、すべては「おまかせします。よろしく願いいたします。」と言えるだけでした。この病気で治った人はいない、娘の命は「あと半年」と言われ、息が止まるほど驚き、それから毎日、「だれか娘を助けて・・・！」と心の中で叫んでいました。誰にも相談できず孤独の中にいました。がんサロンがあったら、救われていたかもしれません。娘は病気がわかってから9か月で亡くなりました。

つらい日々をくぐりぬけ、ようやく今、健康な気持ちで毎日が過ごせるようになりました。そんな時、子供向けの活動をしている音楽家の近所の友人から頼まれ「命の学習、がんと抜け毛～命ある今～」というテーマで、近所の小学校の放課後クラスで娘の話をするようになりました。昨年と今年、数回いたしました。小学生1年から6年生まで50人くらいの子供たちが教室に集まります。

話の内容は、下記のような感じで、約30分です。

まず、娘の病気の発見から亡くなるまでの様子です。娘の発病前の可愛い姿と、がんの治療で髪の毛が抜けて坊主頭やステロイドでムーンフェイスになった姿を映像で見せます。病院の小児病棟での生活の様子も紹介します。亡くなった後の葬儀、火葬、納骨についても説明をします。

その次は、娘を亡くし、心を病んでいた私が立ち直っていく過程を紹介します。子供を自殺で亡くし、狂うように苦しんでいるある母親に出会ったことが立ち直るきっかけでした。私も、もっともつつらい思いをしている母親がいることを知ったことからでした。

その後は、命を大切にすることとは、お友達となかよくすることです、と話します。人間という漢字は人と人の中で生きると書く、人間は、人と一緒に生きる動物です、ひとりでは寂しくて生きられません。ですから、いじめなんか絶対いけません、いじめられると生きていけなくなります、と話します。

最後は、娘が好きだった「アンパンマンのマーチ」を動画の音楽に合わせて皆で歌います。

小学生の子供に私の用意した話が通じるのかと初めは不安でしたが、皆、食い入るようにスクリーンを見て話を聞いてくれました。教室は物音ひとつなくシーンとします。毎回、何人かの子供は涙を拭いていたそうです。

「がん」で小さい子が亡くなっていく過程をこんな風に映像で見ることが珍しいのでしょうか。皆どんな気持ちで話を聞いてくれたのでしょうか。何か心に残ったのでしょうか。亡き娘と私のコラボが皆の中で生かされればうれしいのですが・・・。

納賀先生の本日のお話を聞き、先生の活動をこれからもよく知っていき、娘のことで、私もなにか出来ることがあればしてみたいと思いました。

納賀先生、素晴らしくパワフルなお話をありがとうございました。先生の今後のますますのご活躍とご貢献をご期待しております。